

令和元年度第1回南牧村総合教育会議 議事録

日時 令和2年2月25日(火) 午前10時32分開会

場所 南牧村役場3階大会議室北

議事内容

- 1 開会
- 2 村長あいさつ
- 3 議事
 - ①村内小中学校舎について
 - ②村内の児童・生徒数の推移について
 - ③その他
- 4 閉会

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

会議出席委員

(村長) 大村 公之助 (教育長) 高見澤 岡治 (教育長職務代理者) 高見澤 みち子
(教育委員) 高見澤 ふみ子 吉澤 富久子 高見澤 一男
(教育次長) 井出 浩美 (学校教育係主幹) 井出 聡
(総務課長) 津金 初男 (総務課企画係主任) 有坂 恭祐

開会 午前10時32分

◎開会

津金課長 ただいまより、令和元年度第1回南牧村総合教育会議を開会します。まず初めに村長あいさつをお願いします。

◎村長あいさつ

大村村長 皆さん、こんにちは。大変お忙しい中、またコロナウイルスまん延ということで自治体も冷静に見守っているという状況でございます。そんな中で今日、第1回目の南牧村総合教育会議開催ということになりました。実は昨年9月に次長、教育長にお願いして(総合教育会議)を開催する運びとなっていました。その頃板橋の土地問題が非常に緊迫した状況でそこに学校問題が色々と複雑に絡んでいくと、大変な事になると判断し、急遽中止にしたという経過がございます。本会議は主に学校の事、村とすれば主に学校の統合問題を話し合う訳です。ただ、中部横断道の問題、南牧村が抱

えている問題、全ての財産区との土地問題など行政全ての問題が学校の統合に関係してくるということで総合的に考えていかなければならないと思います。南小の場所に学校を作るとなると土地問題が絡んでおりますので今まで板橋財産区や土地委員会という委員会と協議してきたところ、板橋財産区が抱えている土地問題につきましては、見通しがついたもの、解決したもの、今後協議を続けていけば合意ができるものとなり、ある程度（土地問題解決）の見通しがつきました。そのため、今日改めて皆さんにお集まりいただいて学校の今後の活動について話し合っていこうと思った訳です。学校のことについては、まだまだ問題が山積みであります、学校（の建設）候補地については板橋（財産区）と今後も続けていきたいと思っておりますが、それよりももう一方の候補地である中学校周辺の場所について、もう少し積極的に取り組んでいくということで協議していただこうと思っております。もう一つ（の問題）として南小学校につきまして昨年、一昨年と児童が激減したということを受け、昨年の暮れから（両小学校で）1・2年生について複式学級の可能性があるという話がありました。そのため、昨年は小学校だけでも南小学校で（統合）という具体的な話もありました。（どの校舎も）築40年経っており、新たに小中学校の統合ということになりますと当然学校を用意しなければなりません。そういった場合どうなるのかということが気がかりで。それから私も何回か（南小に）行っているのですが堆肥の臭いが非常に痛烈でした。外だけでなく校舎の中、ランチルームまでそういった臭いが充満している現状です。板橋地区では現在、堆肥問題もある訳ですが、これについても中々進展がありません。この点からいっても南小周辺で統合というのは、やはり無理かな、と。おそらく全国どこを探してもランチルームまで堆肥の臭いがするという学校はないと思います。そういったことを考慮しながら現在に至っています。小学校の現状、板橋との場所について、その他の問題については見通しがついたようですがまだ数年はかかるという訳です。国調（註：国土調査）が出来て、登記が出来るようになるには、まだ5年や6年かかるということで中学校の跡地という具体的なビジョンを作っても良い時期に来ているということで今日議論していただきたいと思う。それから、これまで村が関わってきた4年間の両小学校、中学校にかけた施設の経費を出しておりますし、参考資料や村内の児童生徒の数や（学校づくり委員会・建設検討）委員会立ち上げの経過などを資料として付けてありますので参考にしながら話を進めていければと思います。土地、場所、今後の行政運営のことを考えると避けて通れない問題がありましたので2年間という貴重な時間をいただいて（解決に向け）取り組んできたという訳でございます。今後は新しい展開に向け、皆さんのお知恵を借りながら取り組んでいきたいと考えております。大変長い時間をかけて説明を申し上げた訳ですが、こういった会議が今後前向きに検討されていき1日も早く小中一貫校あるいは学校統合という形に繋がっていけば良いかなと思います。よろしく願いいたします。

津金課長 ありがとうございました。それでは次第に従いまして、議事を進めてまいりた

いと思います。議事の①村内の小中学校舎の修繕費ということで村長1期目の間に色々な話が並行して進んでいました。ただ、その間も校舎の老朽化等であちこち傷んできたので、それに係る主な修繕費用を教育委員会の方でピックアップしておりますので説明をお願いしたいと思います。

井出次長 それでは私の方から資料1について説明させていただきます。各学校の平成28年度から今年度までの集計です。この中には修繕ではないものも含まれておりますが改築等による費用ということで記載させていただきたいと思います。まず北小学校ですが29年にじいろ教室の開設、30年31年に関しては猛暑対策、これは各校共通でございますが、網戸の取り付けや扇風機の取り付け費用でございます。また、修繕ではランチルームの雨漏りがございました。31年には猛暑対策で保健室にエアコン設置、扇風機の追加設置、トイレの改修をさせていただいております。南小でございますがなかよし教室の関係は南小児童の入学により実施させていただいております。平成30・31年には扇風機の設置、トイレの改修などがございます。中学校でございますが大規模修繕がいくつかございます。平成28年度には体育館の雨漏りの修繕、大規模修繕として1500万くらいの費用が発生しています。29年には体育館の床の研磨がございました。30年31年にかけては猛暑対策、プールの修繕がございます。31年には地下タンクの関係、渡り廊下の雨漏り雨漏り対策、トイレ改修の工事がありました。下段にまいります。教員住宅の関係は南小の住宅について老朽化が著しく、各年度一戸300万の費用がかかっています。最後に共同調理場でございますが30年にエアコンを設置し、31年に灯油タンクの長寿命化を行ないました。以上の合計をいたしますと9263万円ということで約1億円近い費用がかかっております。以上です。

津金課長 ありがとうございます。この資料に基づきまして何かご意見等ございますか。統合までの当面の間は改修に伴って子どもたちの学校生活に支障がないよう進めなければならないと思います。今後、改善していかなければならない所につきまして教育委員の皆さんもご意見等ありましたら出していただきたいと思います。いかがでしょうか。

高見澤一男委員 すみません。南小の教員住宅は全部で何戸くらいあるのでしょうか。

井出次長 9戸です。

高見澤一男委員 それで今はいっぱいになっている？

井出次長 1戸は空いていますが新年度はいっぱいになります。

高見澤一男委員 ありがとうございます。

津金課長 北小の教員住宅の改修は今のところないんですけれども、特に必要ないという事なんでしょうか。

井出次長 必要ないですね。

高見澤職務代理者 去年、いえ一昨年ですか、村長と皆で北小、南小、中学校の施設をまわってチェックしたことがあったと思うんですが、その時に南小の教員住宅はかなり

古くなっていて冬は寒い。学校づくり委員会や建設検討委員会で南小はベテランの先生の来手が少なく中々大変だねという話の中で、せめて教員住宅だけでも良いものという話があったんですけども、今少しずつ改修していつているという話ですが、これからを見越して新築ということもあるのでしょうか。

大村村長 もう、ほとんど改築は終わってるのかな？南小の教員住宅。

井出次長 いや、あと2戸ございます。

大村村長 住んで住めないことはない？

井出次長 まあ、新年度は1戸やる予定ですが。

大村村長 満杯かい？

井出教育次長 今は1戸空いています。新年度はいっぱいになると思います。

高見澤職務代理者 やっぱり少しずつ直したところでどうしても元がダメになるということ。

大村村長 これについては先ほど説明をしたんですけども、(村民の)皆さんの意見と教育委員会の皆さんの意見とそれから村で同時進行の色々な事業がある。それから今後そういった大きな事業を絡めていくと、これだけの時間がかかってしまう、これだけの予算がかかる。それで多分、私の前はどうせ学校を作るんだから直すところは直さないで、そのまま見て見ない振りをしながら来たと思うんです。でも私、総合的に村の事を考えると学校だけでなく、学校をやる上において色々な事業を絡めて一緒に進めていかないと時間がかかるな、という事で。ただ、子どもの学校生活に支障ときたす問題にはそのときの学校に適した方法でやってきた訳です。特に雨漏り、体育館だとか廊下だとか。それと地球温暖化によって自然とこの辺も30数度になるということで、これから何年後に学校を作るという(ハッキリとした)見通しがあれば教員住宅を直さなくてもいいだろうし、修繕もしなくて良いと思っていたんですけど時間がかかりそうだなということから、皆さんにご理解をいただいて現在に至っている。今後は先ほども申し上げました予算の面、中学校周辺の土地やどういう形で学校を作っていけばいいのかということを含めて今後皆さんと現場を見ながら議論していきたい、していただきたい。板橋の学校についての話はこれから3月議会や財産区の定例会等ございますので順調にいつても6年か7年、南小の用地を確保するのにそれくらいかかる。それを待たられないので、そういった状況を平沢・板橋・野辺山の皆さんにもご理解をいただく、と。じゃあ、学校作らなければいいじゃないかという話はまた別なので。何がなんでも学校を作っていかなければならないとなると、やはり中学校、あそこしかないかな、と。今後(そのような形で)進んでいくのだろうと思います。これは私が決める決めないんじゃないくて総合的に見たときに選択肢がないんじゃないか、と。ありとあらゆる選択肢を使って今日までやってきた訳ですが堆肥の関係の話、土地絡みのこともそうですし、中々難しいことがありますので今日は2年間あるいは4年間の事業を主にお示しして、これは皆さんも一緒に取り組んできたからこそ、ここまで来たと思います。今後は特に

皆さんと密接な関係を構築しながら教育長中心に進めていきたいな、と。まあ、あと今年の予算で直すところは2月7日に教育長、教育委員、担当職員と校長先生とまわってきました。その報告はまた教育長からあると思いますが。皆さんと色々な絵を描くにしても2年や3年かかりますので、なるべく子どもたちに迷惑をかけないように、と。直す所は直していかないと良い先生も来ないだろうし、子どもたちも環境が整っていないとやる気もおきない。お金はかかるけれども予算は使っていかなければならないなと思います。

津金課長 その他よろしいですか。もし、まだ何かあれば③その他の部分でお願いしたいと思います。次に村内の児童生徒数の推移について、資料に基づいて説明を教育委員会からしていただければと思います。

井出主幹 それでは児童生徒数の推計についてご説明申し上げます。資料2をご覧ください。資料2の左側にあります、平成30年度までの出生数の推計で小学校は令和7年度まで中学校は令和14年度までの推計を出しております。グラフをご覧くださいと思います。北小学校は青い線になりますけれども、徐々に減少していつか令和4年を底に横這いになります。南小学校は急激に右肩下がりに減少していき令和6年を底に回復傾向になります。中学校につきましては緩やかな減少傾向が続きまして令和10年44名を底に少しずつ回復していくという推計でございます。続きまして右側をご覧ください。両小学校の今後の課題ということでございまして両小学校の年度ごとの学年の児童数の推移を記載しております。カッコ内の数字は特別支援学級の児童数を表しております。青や赤で着色されている学年ですけれども、国の基準が2学級併せて16名以下で複式学級ですよ、という事になっておりまして色が付いている所は国の基準でいえば複式学級でございます。つまり、北小学校は令和3年、6学年だけど学級数としては5、令和5年度には6学年で4学級という形になるということを表しております。ですが県の基準がありまして、県の基準は2学年併せて8名以下で複式学級ということで9人以上にいれば、県費の職員を申請すれば先生を充ててくれるということです。ですが、現在県内ではこのような学級数が増加傾向にありまして申請した所で先生が加配されるとは限らないという現状でございます。どうしても複式学級を単級で、という事になると県費の先生が来なければ村費の先生を手配していかなければならないという状況でございます。県内で国の基準による複式学級は小学校で99学級、中学校では4学級が対象になっているということでございます。村内の児童生徒数の推移については以上です。

高見澤教育長 補足でちょっと説明させていただきます。井出聡君より南牧村の児童の今後の推移について説明がありましたけれども来年から国の基準でいきますと北小・南小両方で複式学級、いわゆる2学年を1人の教員でという現実が迫っています。そういう中で資料を見ますと、1月30日の村の校長会で北小の校長から提示された資料を元に南小の方でも出していただき、これから16人を割るという説明を受け、今回お

話しすることとなりました。それで県の先生の管区の動向なんです去年 11 月 11 日月曜日に私と高見澤みち子職務代理者が佐久地区の市町村教育委員会の会合に出たところ、長野県東信教育事務所の森泉学校教育課長から長野県は 77 市町村があり、佐久市や箕輪町の 2 か所ぐらいしか子どもの数が増えている所はなく、全体的に南牧と同じような状況の中で南牧村だけが単級で先生を配置するという事は今後段々と不可能になっていくのではないかと。それなら、自治体で探してくださいという話になっていくと思います。しかし本年度、南小に村費の先生ということで理科専科(教員雇用)の予算を割いていただきましたが去年の 4 月から 2 月まで補充できる先生が水澤校長先生を中心に北杜市の方まで探してもらっているのですが見つからない状況となっています。それで来年以降、長野県中で複式学級が出始めてまいりますと南牧村だけが特別といったような環境ではなくなっているという説明がありました。早急に複式学級を避けるという意味では統合を速やかに進めていかなければならないのかな、と。以上、補足説明です。

大村村長 では②について何かありますか。

高見澤一男委員 国の基準で小学校は 99 学級、中学校は 4 学級が対象になっているとの事ですが実際、複式学級をやっている自治体はあるのでしょうか。

井出主幹 今、数字として挙がっているだけで現状は分かりません。すみません。

高見澤一男委員 複式学級というのは自分も経験したことないです。私は理科の教員なんです、例えば 2 年生と 3 年生がいて、2 年生で教える事と 3 年生で教える事を同じ教室で複数やるというのは教員ももちろんですが受けている生徒の方も途中で実験が入ると集中が途切れてしまうんです。半分の時間で両方見る訳ですから。そういうのは非常に厳しいですね。教員・生徒にとって複式学級で授業をやるというのはあまり良くないのかな、と思いますのでそうならないように手はずを(お願い出来ればと思います)。やはり、人数が基準ですから人数を増やしていくしかない、そういうのが必要かと思います。

大村村長 まあ、今までもこういう状況にあったと思うけれども教員を村で採ることが出来れば複式学級を回避できる？何がなんでも、1 学年 2 学年併せて 16 名いなければ強制的に複式なっちゃう訳。

井出主幹 先生が手配できればいいんですけども、県の方から必ず来るとは限らない、と。

大村村長 複式になれば今まで別々だったのが先生一人になる訳だから先生が一人余るんじゃない(ないのだろうか?)

高見澤教育長 教員の数段々減っていて、10 年ぐらい前までは採用されなくても講師として(勤務)している(先生がいた)という状況が続いていたんですけども、去年(教員採用試験の倍率)は 2.8 倍まで下がりました。通常 3 倍を割ると危機的な状況という中で講師の数が少なくなっていると聞きました。

高見澤職務代理者 そうですね。それと一男先生たちの世代の教員の方が多いですよ。

高見澤一男委員 そうですね。団塊の人たちがどんどん退職しているんですよ。

高見澤職務代理者 そのあと、採用を抑えられた人たちが入っているんですよ。

大村村長 これを見れば1人や2人欠けるだけですよ。今年はともかくとして3年になれば南小も北小も。

高見澤一男委員 もう1点よろしいですかね。先生が確保できればいいんですが、教員って小中高併せて100万人くらいなんです。100人に1人は教員なんですけど、住んでいる街が大きいと多くの教員がいて。ここでいうと佐久市が10万、佐久市より南で2万5千、佐久市の4分の1しかこの南佐久には人がいなくて。そういうと教員の8割は佐久市にいるんですよ。それで、教員は基本転勤族ですから自分もそうですけど3年に1回、小中の場合には転勤することを考えると佐久市に住んで便利なところを回る人が多いんです。ですから南牧に来るとなると人数がグッと少なくなるという事がありますので、やはり教員の確保というのは非常に難しいと思います。

大村村長 これ、実際父兄の皆さんは（どう考えているのだろうか?）。複式なんて経験がない訳ですからPTAの皆さんなんかどう捉えているのだろうか。

高見澤職務代理者 私、この間とあるお母さんと話した際には複式は悪くはないんじゃないのって。ただ、そこはやはり先生次第ということもあって、とくに南小なんかは若い先生ばかりで、その若い先生が（複式学級を指導した）経験のない方で2クラス受け持つとなると大変厳しいと思いますし。小学校の子どもたちにとって先生の存在ってとても大きいと思うんですよ。なので、先ほどおっしゃっていたように中学校に学校を作ることを今後話していくというのは大変ありがたい話で、先生たちが佐久辺りから通ってくるのに、南小だとちょっと行きたくないけど北小までなら良いという話はよく聞く事なので。このまま建設検討委員会、学校づくり委員会で出た意見でも、やっぱり先生が来てくれない事が一番困る。子どもたちにとって、よりよい教育環境でよりよい教育を受けさせたいという保護者が多いので。これから、とにかく一人でも多くの先生が通いやすい場所がいいな、と思います。

大村村長 今、言った中で遠回しに野辺山は寒いとか遠いとか、市場坂が大変だとか先生方は言っているようですが一番はやはり臭い問題があると思う。これは中々ね、言うて基幹産業である畜産業のことを言っている訳で、それを私が言うと大きな問題になるし、皆さんが言っても問題になる。もうね、そんな時期ではない。ダメなものはダメ。臭いものは臭いんだから。よくね、我慢してるんじゃないかと思っているんですよ、先生方をはじめ皆さんも。だけど、その辺のところは私も苦労しながら、板橋の皆さんにお願いしながら堆肥センターとか。畜産農家だけじゃなくて野菜農家だって良い訳ですよ、良質な堆肥と。それと、やっぱり、観光地でもあるし。そういった面では堆肥を外に積んでおくというのは本来法に触れるんだけど徹底できなくて、農家の皆さんもそれぞれ堆肥を作って対応していただいているんだけど。投資もしてるんで

すよ。でも中々地域の臭いというのがあり、それで先生の来手が少ないのでは。先生だって堆肥の臭いが大変から行かないっていうのは思っても言わないですよ。だから、こんな状況になっちゃって本来だったら、その部分を PTA や子ども、先生が遠慮なく議論していれば今日までこんな状況にはならなかったと思う。まあ、そのところは大きな声で触れれば色々問題になる。土地問題も、どうなるか分からないくらい、行政は一切タッチしてこなかった。ただ、そんなことは言っていられないという事で村が抱えている土地問題は大分進んできた。今回、財産区には正式に言っていないんですが話し合ってきた経過がありましたので、そういった（中学校周辺に学校を建設するという）話をしてきますけれども、板橋の皆さんはもちろん、平沢・野辺山の皆さん、遠くてイヤだというのは成り立たない訳ですよ。もう 2 年間苦勞して、なるべく村の中心でやってきた訳ですから。ほとんど見通しが立たないという事で現状を考えれば、（新しい学校を）一日でも早く作らなければいけないという訳です。そのため、教育委員会の方で進められる事は進めていただきたい、と。野辺山・板橋・平沢についてはそういう話をしながら、まだ説明会をしてごさいませぬけれども追々とやっていく、と。そして今、言った通り複式については、なるべく（複式に）ならないよう教育委員会は努力してください。高見澤先生（註：高見澤一男委員）もいるからよく相談して。先生も見つけてもらって。

高見澤教育長 並行して学校もできるっていう希望も提示しながらやっていけば良いと思います。

大村村長 予算もね、かかる事なので。小中学校を新しい所に建設する場合、今ある学校付近で建てる場合であれば予算も違ふと。その資料も出ているので説明してもらってもいいですか。

井出次長 では、えーとお手元にごさいます参考資料をご覧ください。学校建設に係る補助金シミュレーション、囲ってごさいますが建設場所を南小の隣地、中学校周辺の 2 つを仮定し、学校種を義務教育学校、小中一貫型小・中学校、3 点目は小学校のみの統合を想定しております。では 1 番目に南小の隣地を新たに取得し、新しい学校の建設をご説明します。この場合の隣地は南小の隣地では全くない場所でも同様の意味でごさいます。義務教育学校の場合は小学校、中学校が 1 つの学校になりますので新築全体は補助金の対象で 2 分の 1 でごさいます。②の小中一貫型小・中学校というのは施設一体型であっても小学校と中学校は別のものでごさいます。小学校に関しましては統合しても新築するという事でごさいますので 2 分の 1 の補助がありますが、中学校に関しましては現在ある耐震化の済んだ校舎をあえて移転するなどという事になりますので、中学校については何も補助はありません。③の小学校のみの統合を行った場合、小学校の統合ということになりますので 2 分の 1 の補助をもらうことができます。なお、南小の敷地はかなり広い訳でごさいますけれども、その一部でも利用する、使用する場合、それが全て補助対象外となってしまいます。それが隣地と設定した意味でごさい

います。次に 2 つ目の設定で中学校の敷地及び周辺という事でございますが義務教育学校の場合は小学校の部分の新築は小学校の統合に該当いたしますので 2 分の 1 の補助ですが、既存の中学校の校舎は耐震化が済んでおり、まだ見込みとして使えると判断します。そのため、新築の工事の際にも申し上げた通り、大規模改造ということで 3 分の 1 の補助を受けることができます。②の小中一貫型小・中学校の場合、やはり①の義務教育学校と全く同じで小学校の新築部分は 2 分の 1、中学校につきましては既存の大規模改造ということで 3 分の 1 という事でございます。米印のところの中学校の既存校舎を使用せず、全く新しい中学校の校舎も作るということになれば補助対象には当たりません。中学校周辺の場合は大規模改造ということで、その場合は事業費の上限があり老朽化の改造に 2 億円、エコ改修というのに 2 億円、計 4 億円が事業費の対象となります。それぞれ有無がありますが、屋根または内壁の改修あるいは内壁、天井、床の改修などを行うことができます。それから断熱化に使うことも可能です。以上です。

大村村長 次長が話したのは、あくまでも学校を色々な状況で作った場合、補助になるものと一切補助には該当しないというものがあるという資料でございます。今後これも頭に入れながら皆さんご検討いただきたい。ただ一つね、先ほども言ったけど板橋との話の中で学校について板橋地区での建設の可能性はありませんという話は一切してございません。それは今後ね、非常に難しい問題でございますので、それなりの結論を出すには、今後皆さんには集まっていただいて、どういう形になるにしろ話さなければなりません。結論が出るまでは時間がほしい。ただ、そうは言っても中学校周辺の事については、やるべきところはどんどんやっていただきたい。

高見澤教育長 今、村長から指示がありましたので教育委員会の方でも検討していきたいと思います。

高見澤職務代理者 個人的には村長の中でそういう気持ちが大きくなってきたという事を大々的に発表してほしいと思いますが。

大村村長 実際、これ以上直接、板橋について話をしなくても、板橋の皆さんは分かっている訳ですよ。今まで一番心配していたのは、その話がこじれて土地問題まで影響することです。あそこは中部横断道 1 キロルート帯のルート沿いですので、そういったところまで影響が出るとややこしくなると。そうなると中部横断道の計画もどうなるか分からない。上に作ろうが下に作ろうが、中部横断道を使ってゆくゆくは子どもたちがそこを通学する訳ですから、そういうのも考えた中での進め方ということで。こうなれば、もう理解を。平沢の皆さんも当然、そこに（南小周辺に）作らなきゃだめだという話もあるんだけど、無理なものは無理なんだ、と。そういった既成の事実を一つずつ積み上げていく、と。ただ、話し合いつてことだけじゃなくてね、そういうことで 2 年という時間をかけてやってきた訳で。当然ね、（平沢の皆さんは）言ってますよ。どうしても南小の場所に作ってほしい、と。そういった事には既成の事実を皆さんに理解していただくって事じゃないか、と。

高見澤職務代理者 1日でも早く村長さんの決断を周りに発表していただきたいな、と。

高見澤ふみ子委員 やっぱり私たちは教育委員として出来る事はやるつもりですが、村長はこういう風にやるぞというのを示していただかないと私たちも勝手にやるっていう訳にはいかないのです。

大村村長 機は熟すという言葉があると思いますけど、それなりの時間をかけて色々な議論をしていただいて、「何言っているんだ、村長の言っていることは分からない」「じゃあ、どっちに作るんだ」という話もあったけど私とすれば一つ一つ詰めないと、既成の事実を積み上げないと中々進まない。中学校の候補地については検討委員会にも当初、出していただいた訳ですけれども、既に海ノ口財産区の方には2年3年も前から話をしてあってですね、まあそちらからも「何をやっているんだ」というお話もいただいております。ですから、その辺は平沢・野辺山・板橋の皆さんをいかにね、説得をするかという。皆さんだってそれなりの理由がないと納得しないですから。その辺は納得していただける資料は用意してある。ただ、それに賛同するかしないか、私の一存で決められたか、いやそうじゃないだろうという話も出てきますので慎重にやっていきたい。

高見澤職務代理者 でも、板橋でって村長さんがおっしゃってからもう2年近く経って進まないっていうのはだいたい周知された訳じゃないですか。

大村村長 進まないっていうのはあくまでも国調をやると当然5、6年はかかる訳ですよ。この問題を取り上げたときに土地問題、国調だけじゃなくて、ざっこの沢っていう所、村上のパイロット、すでにそこはパイロット事業をやっている所で要するに土地の地権者。区でも色々問題があって個人の登記にならなかった訳ですよ。色々な事情がある。南小を作った時の経過も土地絡みの問題もあって。そういったものを一つずつ解決して行って、村上のパイロットも個人登記ができる、それから南小の前の問題も片付く、それからあそこにはもう一つ、まきばの件とか複雑に色々絡んでいる。この話をもっていったときに当然くしゃくしゃになる。要するに「蓋を開けるんじゃないぞ」と言われたんですけど、開けたんですよ。何が出てくるのか分からなかった。どうしようもない状況になるんじゃないかと思っていましたが、それぞれの方向性が出たということで板橋の皆さんも承知してくれた。ただ、学校については後5・6年したら登記が出来るようになる。そこから話をするとまた1・2年かかり、登記から7・8年かかってしまう訳。なおかつ2年間我慢している訳だから、トータル10年という事だとちょっと無理だろう、という話を今後、平沢・野辺山の皆さんにしていく。実際、検討委員会 のとき、既に平沢の100名くらいの方から南小の辺に作ってほしいという要望があったんですが、それは建設検討委員会の皆さんが一生懸命やっているんで、その意向を聞かない内は（話を進めることができない、と）。平沢の皆さんに話をしてきました。そして検討委員会で決まった事に対して平沢の皆さんは、「そこは村長、上（註：南小）にしますよね」という話をいただいて、その時は板橋の南小の跡地に学校を作りたいんだと述べましたらご理解をいただいた。ところが、それからずっと2年間やってきた

んですが見通しが立たなくなったという訳でございますので、それはご理解をいただくしかない。「いや、村長それはあなたの仕方が悪いんだ」「あなた、もっと汗をかきなきゃダメだ」って（いう話があるのも）承知していますが無理なものは無理ですから。板橋の皆さんも、ものすごく真剣にやってくれたんです。ですから、開拓の問題だと色々な問題とか中部横断道の問題、ご理解をいただいて進んできた訳なんですけれども中々学校については時間がかかる。

吉澤委員 村上のパイロットの方も色々問題があるんですね。

大村村長 ありましたが今はおかげ様でほとんど（解決しました）。今度、村上のパイロット組合の皆さんが来るんですけれども、ほとんど解決した。それについて、ありがとうございますって事だと思うんですが、その時に学校の話をもう一度その皆さんに話をしようかと思えます。まだ、南小の所で是非っていう人もいる訳ですよ。村民、区民の合意もありますし。もう一つは堆肥の問題がある訳です、センターのね。

吉澤委員 春・秋が臭いんですか。

大村村長 当然、夏はあまりいじらない訳ですから春と秋ですね。冬はほとんど（臭いは）ないと思いますよ。

高見澤教育長 過程について詳しく説明いただき、ありがとうございました。教育委員会の会合で我々の中で出た意見として、どうしても子どもの数が減っているというのは教育委員会だけでは解決出来ないもので。これについてはさっき話があったように他の産業振興とか村全体で子どもの数が減らないよう、教育委員会として村にお願いしたいと委員の中から出ました。産業建設課も含めて産業振興とか子どもが減らないように力を入れてもらいたいと。

大村村長 富久子さんもそう言ってますけど、平沢の皆さんが板橋の財産区の皆さんの所へ行って是非お願いしますっていうのがない訳です。野辺山地区の皆さんが是非（南小の所に）作ってほしいっていう要望や陳情があるかって言ったらないと思う。村におんぶに抱っこという訳で。もう一つは皆さんご承知の通り、水害が出たりした。この辺はこのくらいで済んだそうなんですけど佐久、佐久穂、長野の鶴賀のあたりは全部2mくらい水に浸かってしまった。ああいう状況になれば、インフラとして国道がやられた、鉄道がやられたとか。何かあったときはどっぷり浸かっちゃう訳ですよ。そういうのがあって本来でしたら、海尻や森下の皆さんがそういう可能性があるなら上に作ってほしいという声も一切ない。そういう声があれば、じゃあそれなら上で、あるいは下（註：中学校周辺）で、と自然になる訳だけれども。海尻・海ノ口・広瀬の皆さんは下に執着する、板橋・野辺山・平沢の皆さんは上に執着する。そういう中で中部横断道がある。色々な問題がある。土地問題がある。このくらい時間がかかっちゃったなというのが現状なんです。まあ、これからも多分いくらかそういう面も出てくると思う。でも、そんな事を言っていられないのが、この村の現状ですから。皆さんが心配しているよう子どもが激減している。まあ、そこをメインに今後、教育長と教育委員の皆さんで積極的に

進めてほしい。

高見澤教育長 建設が具体的に進んでいけば希望が生まれるので。全く学校が出来ないというよりは子どもたちもやる気をもって取り組むと思いますし。自分としては全中スケートの優勝 2 連覇から感じたことは村で一つだなんて、上や下とは言わないし、南牧村は一つだねって感じました。やっぱり人口が増えないことには始まらないのでそういう中では村が一丸となって、ふるさと愛を育んでいかなければならないと思っています。

大村村長 もう少し村民の皆さんに学校を見てもらった方がいい。南小にしても北小にしても中学校にしても、やはり古いものは古いよ。教育環境が変われば頭が良くなるとは言わないけど今風ではないよね。

高見澤職務代理者 本当に建設検討委員会、学校づくり委員会で色々な話がありました。学校を作らなくてもいいんじゃないか、このまま十分やっていけるんじゃないかっていう人たちも、佐久穂小中学校の見学にいったら、やっぱりより良い教育環境にという風にコロっと変わった人もいて。(既存の校舎は) 基本的に日当たりが悪かったり、寒かったりっていうのはあるので。

大村村長 教育委員会も村民をもっと、募集して学校の視察をやってもらった方がいいんじゃないか、と。予算がかかるにしても。何しろ学校は PTA が終わると、私もそうだったが無関心になってしまう。学校がどれだけ古かろうが雨漏りしようが雪が降ろうが関係ない。

高見澤職務代理者 委員の人たちも子どもが学校を卒業してしまった方が多いと思うんですよ。やっぱり、この 2 年の間に皆どうなったんだろうと思いながら、板橋に出来るのかなーと思っていたと思うんですけれどもやっぱり進まないという事で(今回) 村長が「私は決断しました、こっちに作ります」って言っていただいてその中で説明をしていけば。今までを説明して、これからって事じゃなくて「そういう経緯があってここに作ることにしました」って説明をしていただければその方が早く済むと思うんですが。ぜひそういう風に。

大村村長 そんな単純ではないと思う。何故かという、そういう事でやってきたんだよ。それをやっちゃおうと、「板橋はダメ元でやったのか」って言われちゃう訳で。やっぱり、板橋のあの所を、今言った努力をしないで(中学校周辺に校舎を建設すると言っても) 平沢・野辺山の皆さんも納得しないと思うんだよね。そういうのを「今になってそんなこと言たって、計算してやったのか」「ダメ元承知でやったのか」って話になる可能性だってある訳ですよ。だけど、そこは村が努力をしない、と。しないで下に作っちゃおうと一生そういう話について回りますから。

高見澤職務代理者 2 年って結構長い、大きな期間だと思いますよ。

大村村長 大きいですよ。

高見澤職務代理者 皆、もう建設検討委員会も終わった時点ではすぐにでも建設に着手

するんじゃないのか、と。

大村村長 そうは言っても場所を決めるには、まだ（意見等が）あると思う。場所はともかくとして学校を作らなきゃいけないという自覚を持たせるには今言った、他の新しい学校、例えば佐久穂（小中学校）や川上（中学校）だってある訳ですから。それから色々な所を見て視察もやっていただければ、子どもたちがこんな所で勉強をしているんだなって。一番はそこだと思うんです。

高見澤教育長 並行して教育委員会としては一番良い学校を目指して意欲的に勉強して青写真を村長に提示できるよう（にしたいと思います）。その時には場所が決まっています。

吉澤委員 だからハッキリと中学校周辺と（意思表示をしてほしい）。

大村村長 周辺というか。以前は中央公民館の周りを崩して作るっていう話もあったけれども、中学校の向こう（註：南牧中学校西側）に作るスペースはあるんです。

吉澤委員 あー、そうなんですか。

大村村長 だから、今度皆さん実際あの場所に行ってみないと絵が描けないと思う。中学校と中央公民館の間を崩さなくても十分スペースはとれる。

吉澤委員 広いんですね。

大村村長 今後、やはり崩すのか奥（註：南牧中学校西側）に作るのか皆さんに検討してもらいたい。この間、教育長の心配や先生たちからご指摘いただいたのは（中学校校舎内の）照明なんです。生徒の皆さんにとって古い建物の中で照明も部屋も暗いので不安だということで。十分ではありませんけれども一部照明を変えるということ。

高見澤教育長 補足として今年の大きな修理としては北小学校の雨漏りが何百万単位でかかる。あと、体育館の中の扇風機など。一番大きいのは中学校一番奥の校舎の一階部分でかなり暗い。この間、正副村長に体感してもらったがこれを直すということです。

高見澤一男委員 やはり、村長がおっしゃったとおり、村民の皆さんの気持ちが盛り上がるように手配をするというのはもちろん大事ですけども。やはり、村長を中心としたトップの皆さんの気持ちを議会などで表してもらって道を示していただくというのは？議論はそこから出てくるのかもしれませんが、トップの方がどういう考え方をしているのかっていうのを示すっていうのはすごく大事な要素だと思いますので、ぜひ何かの機会にお願いしたい。

大村村長 中々複雑なんです。色々な問題があって。中部横断道も本来でしたら南牧と川上に「境がある訳で、（中部横断道が）一切川上を通らない訳です。そういう中でやっつけていかなければいけないという訳で一番は土地問題が非常に複雑なんです。で、建国百何十年、戦後七十数年経つ訳ですけども、その中で村が行政指導として土地問題に一切関わってこなかった訳です。それは村とすれば関わりたくない訳です。村の職員もそうです。非常に複雑でその度に法律が変わっちゃって。財産区も一切土地が持てないというのが実際は合併の際に寄り集まっただけなんです。その調整が中々、複雑で難し

い。見て見ぬ振りをずっと村がやってきたという訳で。未だに遅れているんですけども、そこは何とか上から降ろして調整をしたい。思いのほか、ここまでくるとそれも仕方ないじゃないかという財産区の皆さんが協力してくれたっていう事で。そうじゃなかったら「何で村がそんな生意気なことを言うんだ」「ふざけるんじゃない」と今まで思ってきた訳です。これから 20 年、30 年経てば今ある村が半分になるという話もある訳ですから、そうなるとうどんなに土地を持っていても地域がなくなるのならば土地を持っていったって墓場に持っていき事は出来ないのだから。そういうことで皆さんの考え方が変わってきたのではないかと思う。

高見澤一男委員 村長が先ほどおっしゃったとおり、機が熟してきているような気がしておりますので。

大村村長 それぞれ、教育委員の皆さんが非常に積極的にやる気になっているのでぜひご協力いただきたい。

高見澤職務代理者 この間、前川喜平さんの講演が野辺山であって聞きに行ったんですけど学ぶための環境作りは行政の仕事、その中身についてはこれから小中一貫校でやるにも地域住民が一体となってコミュニティスクールというのをやっていかないと、これからは成り立たないということで。やはり学校は建てるけど子どもたち中心に考える事であって。子どもたちが成長していく中でどうやったらちゃんとした大人になるか、そういう部分も含めて是非 1 日も早い決断をしていただいて、なるべく早く公表してほしい。

大村村長 やはり、子どもも村のことについて心配しているし、今の状況というのもよく分かっている。(東京都) 一極集中なんて子どもたちは知っている。その中で南牧村に永住したいという子どもは多いと思う。学校の場合は大事に思う。あと、教育長から言われているんですが 7 年後には国体(註: 国民体育大会)があるということで国体招致という話も帝産(ロッジ)から教育長の方へ色々な話があるようでございます。県の方にも今後、招致運動を行っていくという事で。教育員会の皆さんにも積極的にやっていただきたいという事で。ショートトラックについては帝産(ロッジ)、アウトについては他の地域が手を挙げているようでございますので地域の皆さんと協調しながら、というのが 1 つあるかな、と。それからもう一つは後ろに南牧村八ヶ岳三峰と書かれたポスターがあるんですけども我々が見ている所は南牧の地籍です。南牧村大字という場所です。中学校の皆さん(の登山学習)は茅野の方から登ると聞いております。南牧村では良い(登山)ルートを 2 本ほど開拓して、東信森林管理署にお願いして硫黄岳からあるいは横岳からおりるルートを作りました。八ヶ岳の麓 1,600~1,900m の所に村道がある訳ですがそこにバスが入れるような道が出来た。今後教育委員会の皆さんにもなるべく早い時期に今年は暖かいので 5 月の内には現場を見てもらいたい。そしてゆくゆくは学校の中学生でも小学生でもこちらから、海ノ口の地籍から登っていただくという事でお願いしたいと思っています。また、観光でも観光資源として PR し

ていこうと思っていますので皆さんぜひご協力していただきたい。中々、南牧に住んでいても実際行けなかった。なので今度は楽しんでもらう。そういう事をしていかないと子どもたちが南牧に残らないですよ。今後、学校の具体的な動きに関しては議会の皆さんにもお願いしたり皆さんの意見を聞いて、次のステップでは学校統合というご提案をいただいたり進めていきたいと思う。

高見澤教育長 教育委員会としてはタイムスケジュールを提案していきたいと思います。

大村村長 あと、次長・総務課長、何かありますか

津金課長 お手元に国の新型コロナウイルス感染症への対応という2月20日出されたものがあると思います。この3連休の対策ということでご承知の事と思いますが、学校につきましては手洗い・うがいの徹底、できるだけ人込みを避けていただきたい、また熱っぽいなどの症状がある場合には積極的に休める体制を整えていただきたいという事でございますので、これから1・2週間が感染拡大を防ぐ機会になります。村としてもどうなるか分かりませんが一度感染者が発生すると新聞報道等で報道されますのでしっかりと対応していただきたいと思います。他に何かありますか。

◎閉会

津金課長 それでは、以上で第1回南牧村総合教育会議を閉じたいと思います。ありがとうございました。

閉会 午前12時6分
